

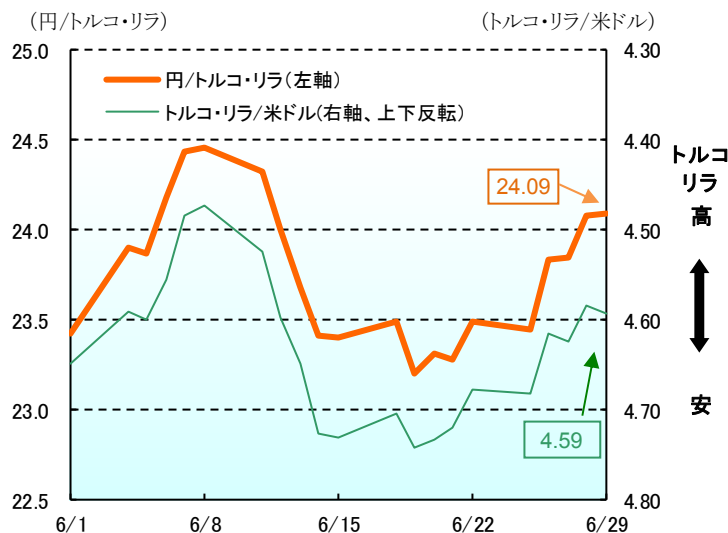
【2018年6月23日～2018年6月29日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は対米ドル、対円ともに上昇しました。またトルコの2年国債金利も上昇しました。

前週末の大統領選挙と議会選挙を終え、トルコ・リラは政治的不透明感が後退したことによる買い戻しが優勢となりました。エルドアン大統領の首席経済顧問のエルデム氏は、ロイター通信のインタビューで、中銀の独立性は「基礎的条件」であると述べ、選挙後に大統領が中銀に利下げ圧力をかけるとの見方を牽制しました。なお、発表された5月の貿易収支は前月より赤字幅が拡大しました。国債金利は根強いインフレ懸念を背景に小幅に上昇しました。

【トルコ・リラ 為替推移】 (2018年6月1日～2018年6月29日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

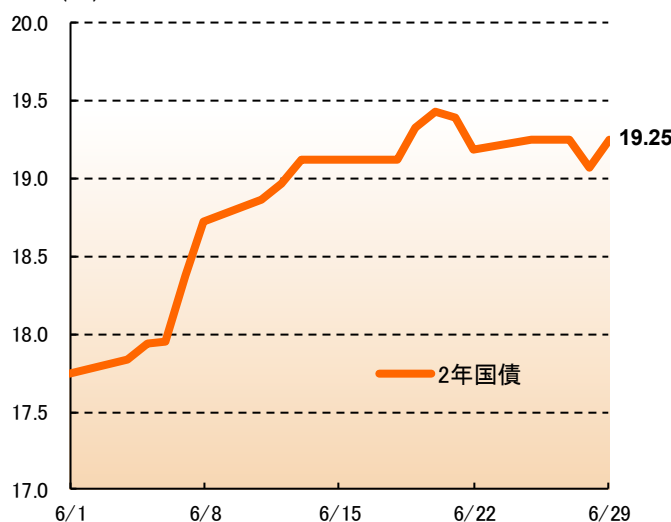
【2】今週の見通し

今週は、経済指標では6月の消費者物価指数などが発表されます。

大統領選挙と議会選挙ともに与党が勝利したことで、当面は政治的な安定が見込まれます。また、エルドアン大統領と連立与党を組む民族主義者行動党(MHP)のバフチェリ党首は、7月に期限が切れる非常事態宣言を延長しないことで合意しました。非常事態宣言下では、政権は議会を通さず新法を成立させることや、国民の権利や自由を制限することが可能であることから、国内外で批判が強まっていました。

トルコ国内では、政治的不透明感が後退し、新政権は中央銀行の独立性を尊重する姿勢も見せています。一方、足元で市場の注目が米中貿易紛争に移っており、リスク回避的な姿勢が新興国資産全般に広がる場合には、トルコ・リラが再度売られる可能性があると考えています。

【トルコ 金利推移】 (2018年6月1日～2018年6月29日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>